

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9
マルチ・ファンデーション AS/400
PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
マルチ・ファンデーション AS/400 PeopleBook
SKU AC89JMFA0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

概要	1
エンタープライズ・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール	2
エンタープライズ・サーバーへの新規サービス・パックのインストール	3
▶ サービス・パック CD からエンタープライズ・サーバーに新規サービス・パック・ファイルを転送するには	3
▶ 新規のシステム・ライブラリを作成し、CD からコピーしたサービス・パック・ソフトウェアをインストールするには	5
▶ Knowledge Garden からダウンロードした新規サービス・パック・ファイルをエンタープライズ・サーバーに転送するには	5
▶ 新規のシステム・ライブラリを作成し、Knowledge Garden からダウンロードしたサービス・パック・ソフトウェアをインストールするには	8
▶ 新規サービス・パックの JDE ログ用に新規 IFS ディレクトリを作成するには	8
▶ JDE.INI を編集するには	9
▶ 既存のサブシステムから新規サービス・パック用のサブシステム・エントリを削除するには	10
▶ 新規にインストールしたサービス・パック用の新規サブシステムを作成するには	10
▶ ライブラリ・リストが適切に設定されているかどうかを確認するには	11
▶ パス・コードのビジネス関数を新規サービス・パックにリンクするには	11
PORTTEST の実行	11
▶ PORTTEST を実行するには	11
▶ ERP 9.0 のサービスを開始するには	12
クライアントの JDE.INI ファイルの編集	13
▶ クライアントの jde.ini ファイルを編集するには	13
デプロイメント・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール	14
▶ デプロイメント・サーバーに複数のサービス・パックをインストールするには	14
▶ 新規サービス・パック用の新規マシン・レコードを追加するには	16
▶ 環境を削除するために既存のマシン・レコードを修正するには	17
デフォルト以外のファンデーションを使用したパッケージの作成	18
デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成	18

▶ 特定のサービス・パックを使用してクライアント・パッケージを作成するには.....	18
デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成	23
▶ デプロイメント・サーバーからサーバー・パッケージを作成するには.....	23
▶ クライアントからサーバー・パッケージを作成するには.....	23
本稼働用環境への新規ファンデーション・コードのプロモート	24
▶ 新規ファンデーション・コードを本稼働用環境にプロモートするには.....	24
▶ プロモートするサービス・パック用のサブシステム・エントリを削除するには	25
▶ プロモートする新規サービス・パック用の新規サブシステムを作成するには.....	26
▶ ライブラリ・リストが適切に設定されているかどうかを確認するには.....	26
▶ パス・コードのビジネス関数を新規サービス・パックにリンクするには	26
▶ 新規にプロモートしたサービス・パックが正常に動作するかどうかを確認するには.....	27
▶ デプロイメント環境のファンデーションを本稼働用環境にプロモートするには	27

概要

このガイドに記載されている手順で操作すると、サービス・パックをインストールする時に特定の環境を対象として指定できます。たとえば、既存のファンデーションで運用中の本稼働用環境を維持しつつ、他のすべての環境に新規のサービス・パックを適用できます。この構成では、本稼働用環境に影響を与えずに、新規のファンデーション・コードでのテストを実行できます。テストの完了後は、本稼働用環境にその新規サービス・パックを適用できます。

単一のエンタープライズ・サーバー上で多数のファンデーションを処理するように ERP 9.0 を構成するには、以下のタスクを完了します。これらのタスクでは、複数のファンデーションを設定するためのパス・コードと jde.ini ファイルを再構成する必要がありますが、それらの初期タスクが完了した後の新規構成では保守管理作業がかなり軽減されます。

このガイドでは、次のタスクについて説明します。

- エンタープライズ・サーバーへの新規ホスト・コードのインストール
- クライアントの JDE.INI の編集
- デプロイメント・サーバーへの複数のサービス・パックのインストール
- デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成
- デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成
- 本稼働用環境への新規ファンデーションのプロモート

エンタープライズ・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール

複数のファンデーションをインストールするには、最初にエンタープライズ・サーバーに新規システム・コードをインストールして構成する必要があります。このセクションでは、次のタスクについて説明します。

- エンタープライズ・サーバーへの新規サービス・パックのインストール
- JDE.INI ファイルの編集
- PORTTEST の実行
- サービスのインストールと開始

注:

ERP 9.0 の構成に ERP 9.0 のホスト・コードを実行する複数のサーバー（つまり、他のアプリケーション・サーバーやデータ・サーバー）が含まれている場合は、サーバーごとに複数ファンデーションのインストール手順を実行する必要があります。この種の構成を正常に機能させるには、次のことを確認してください。

-
- JDE.INI の[JDENET]セクションのポート設定が、同じファンデーションを実行するすべてのサーバー間で一致しているかどうかを確認します。
 - 新規サービスは、すべてのサーバー上で実行する必要があります。
 - インストールされているすべてのファンデーションのリリースについて、全サーバー上で PORTTEST を正常に実行する必要があります。

エンタープライズ・サーバーへの新規サービス・パックのインストール

次の手順に従って、エンタープライズ・サーバーに新規サービス・パックをインストールします。ここでは、CD またはダウンロードした実行可能ファイルからインストールする手順を説明します。

▶ サービス・パック CD からエンタープライズ・サーバーに新規サービス・パック・ファイルを転送するには

ここでは、CD からサービス・パックをインストールする方法について説明します。

1. 次のコマンドを入力して、サービス・パック・ソフトウェア用の一時ライブラリを作成します。

```
CRTLIB JDETEMP
```

注:

このライブラリは、インストール完了後に削除できます。

2. 転送準備として次のコマンドを入力し、ソフトウェア用の save ファイル(SAVF)を作成します。

```
CRTSAVF JDETEMP/SYSTEM
```

3. 転送準備として次のコマンドを入力し、ソフトウェア用の save ファイル(SAVF)を作成します。

```
CRTSAVF JDETEMP/KRNLSPEC
```

4. SP CD を挿入しているコンピュータの DOS ウィンドウから、次のコマンドを入力してファイル転送プロトコル(FTP)セッションを開始し、エンタープライズの AS/400 に接続します。

```
C:¥>ftp yourAS400Name(yourAS400Name は AS/400 エンタープライズ・サーバー)
```

```
Connected to yourAS400Name
```

```
220-QTCP at yourAS400Name
```

アイドル時間が 5 分を超えると、220 接続がクローズします。

```
User <yourAS400Name:<none>>:qsecofr
```

```
331 Enter password.
```

```
Password:
```

```
230 qsecofr logged on.
```

5. 次のコマンドを入力して、ディレクトリを AS/400 上の JDETEMP ライブラリに変更します。

```
ftp> cd jdetemp
```

```
250 Current library changed to JDETEMP
```

6. 次のコマンドを入力して、ローカル・ディレクトリを AS/400 の SAVF を含む CD ディレクトリに変更します。

```
ftp> lcd z:¥hosts¥AS400
```

```
(z:は SP CD を含むドライブ)
```

```
Local directory now z:¥hosts¥AS400
```

7. 次のコマンドを入力して、転送モードをバイナリに変更します。

```
ftp> bin
```

```
200 Representation type is binary IMAGE
```

8. 次のコマンドを入力して、SYSTEM SAVF を AS/400 にアップロードします。

```
ftp> put SYSTEM
```

```
200 PORT subcommand request successful
```

```
150 Sending file to member SYSTEM in file SYSTEM in library JDETEMP
```

```
250 File transfer completed successfully
```

```
nnnnn bytes sent in n.nn seconds <nnn.nn Kbytes/sec>
```

9. 次のコマンドを入力して、SYSTEM KRNLSPC を AS/400 にアップロードします。

```
ftp> put KRNLSPC
```

```
200 PORT subcommand request successful
```

```
150 Sending file to member KRNLSPC in file KRNLSPC in library JDETEMP
```

```
250 File transfer completed successfully
```

```
nnnnn bytes sent in n.nn seconds <nnn.nn Kbytes/sec>
```

10. 次のコマンドを入力して FTP を終了します。

```
ftp> quit
```

```
221 QUIT subcommand received.
```

```
C:¥>
```


▶ **新規のシステム・ライブラリを作成し、CD からコピーしたサービス・パック・ソフトウェアをインストールするには**

1. AS/400 上で、次のコマンドを入力して新規システム・ライブラリを作成します。

```
RSTLIB SAVLIB(B733xSYS) DEV(*SAVF)
```

```
SAVF(JDETEMP/SYSTEM) RSTLIB(syslib)
```

(*x* は現行リリースの PTF/Cum 番号、*syslib* は B73SPSYS などの新規システム・ライブラリ名です。)

注:

システム・ライブラリ名は 8 文字以内です。先頭に“B73”、末尾に“SYS”を付ける必要があります。

2. 次のコマンドを入力して、PRINTQUEUE ファイルを既存の SYSTEM ライブラリから新規に作成した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CPYF FROMFILE(B733xSYS/PRINTQUEUE)
```

```
TOFILE(syslib/PRINTQUEUE) FROMMBR(*ALL)
```

```
TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE) CRTFILE(*YES)
```

3. 次のコマンドを入力して、JDE.INI ファイルを既存の SYSTEM ライブラリから新規に作成した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CRTDUPOBJ OBJ(INI) FROMLIB(B733xSYS) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(syslib)  
DATA(*YES)
```

4. IFS ファイル・システムにオブジェクトをインストールします。

```
RST DEV('/QSYS.LIB/JDETEMP.LIB/KRNLSPEC.FILE') OBJ('/krnb733x' *INCLUDE  
syslib)
```

▶ **Knowledge Garden からダウンロードした新規サービス・パック・ファイルをエンタープライズ・サーバーに転送するには**

ここでは、Knowledge Garden®からダウンロードしたサービス・パックをインストールする方法について説明します。

1. 次のコマンドを入力して、サービス・パック・ソフトウェア用の一時ライブラリを作成します。

```
CRTLIB JDETEMP
```

注:

このライブラリは、インストール完了後に削除できます。

2. 転送準備として次のコマンドを入力し、ソフトウェア用の save ファイル(SAVF)を作成します。
CRTSAVF JDETEMP/ESP (複数の save ファイルを作成する必要がある場合は ESP_*)
 3. Knowledge Garden®からデプロイメント・サーバーに、AS/400 サービス・パックの実行可能ファイルをダウンロードします。
 4. AS/400 サービス・パックの実行可能ファイルを実行します。
-

注:

デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location(このプログラムを上記の場所から実行する)]を選択できます。それ以外の場合は、[Save this program to disk(このプログラムをディスクに保存する)]を選択する必要があります。実行可能ファイル.exe をデプロイメント・サーバーに転送し、そこから実行します。実行可能ファイルは、一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。

5. 実行可能ファイルによって次の処理が実行されます。
デプロイメント・サーバー上の¥hosts¥as400 ディレクトリに、ファイル **esp**(続いて複数をダウンロードする場合は esp_*で、*は異なる参照指標が置かれる場所を示します)が作成されます。
6. デプロイメント・サーバーの DOS ウィンドウから、次のコマンドを入力してファイル転送プロトコル(FTP)セッションを開始し、エンタープライズの AS/400 に接続します。

```
C:¥>ftp yourAS400Name(yourAS400Name は AS/400 エンタープライズ・サーバー)
```

```
Connected to yourAS400Name
```

```
220-QTCP at yourAS400Name
```

アイドル時間が 5 分を超えると、220 接続がクローズします。

```
User <yourAS400Name:<none>>:qsecofr
```

```
331 Enter password.
```

```
Password:
```

```
230 qsecofr logged on.
```

7. 次のコマンドを入力して、ディレクトリを AS/400 上の JDETEMP ライブラリに変更します。

```
ftp> cd jdetemp
```

```
250 Current library changed to JDETEMP
```

8. 次のコマンドを入力して、ローカル・ディレクトリを AS/400 の SAVF を含む CD ディレクトリに変更します。

```
ftp> lcd z:¥JDEdwardsOneWorld¥B733x¥hosts¥as400
```

(z:は ERP 9.0 がインストールされているドライブ)

```
Local directory now z:¥JDEdwardsOneWorld¥B733x¥hosts¥as400
```

9. 次のコマンドを入力して、転送モードをバイナリに変更します。

```
ftp> bin
```

```
200 Representation type is binary IMAGE
```

10. 次のコマンドを入力して、ESP ファイルを AS/400 にアップロードします。

```
ftp> put ESP (put コマンドを繰り返し、ダウンロードした ESP_*ファイルごとに残りの 10 の手順に従います。)
```

```
200 PORT subcommand request successful
```

```
150 Sending file to member SYSTEM in file SYSTEM in library JDETEMP
```

```
250 File transfer completed successfully
```

```
nnnnn bytes sent in n.nn seconds <nnn.nn Kbytes/sec>
```

11. 次のコマンドを入力して FTP を終了します。

```
ftp> quit
```

```
221 QUIT subcommand received.
```

```
C:¥>
```

► 新規のシステム・ライブラリを作成し、Knowledge Garden からダウンロードしたサービス・パック・ソフトウェアをインストールするには

1. AS/400 上で、次のコマンドを入力して新規システム・ライブラリと IFS ディレクトリを作成します。

```
RSTLIB SAVLIB(OWESPB733) DEV(*SAVF) SAVF(JDETEMP/ESP)
```

```
RSTLIB SAVLIB(B733xSYS) DEV(*SAVF) SAVF(JDETEMP/ESP) RSTLIB(syslib)
```

(*x* は現行リリースの PTF/Cum 番号、*syslib* は B73SPSYS などの新規システム・ライブラリ名です。)

注:

システム・ライブラリ名は 8 文字以内です。先頭に“B73”、末尾に“SYS”を付ける必要があります。

```
DCPOBJ OBJ(syslib/*ALL) OBJTYPE(*ALL)
```

```
RST DEV( 'qsys.lib/owespb733.lib/krnl-spec.file' ) OBJ( ( 'krnb733x' *INCLUDE syslib ) )
```

RSTLIB SAVLIB(OWESPB733) DEV(*SAVF) SAVF(JDETEMP/ESP_*) この手順を、ESP_R など、他にダウンロードしたサービス・パック・ソフトウェアごとに実行します。

```
RST DEV( 'qsys.lib/owespb733.lib/krnl-spec.file' ) OBJ( ( 'krnb733x' *INCLUDE syslib ) )
```

2. 次のコマンドを入力して、PRINTQUEUE ファイルを既存の SYSTEM ライブラリから新規に作成した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CPYF FROMFILE(B733xSYS/PRINTQUEUE) TOFILE(syslib/PRINTQUEUE)  
FROMMBR(*ALL) TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE) CRTFILE(*YES)
```

3. 次のコマンドを入力して、JDE.INI ファイルを既存の SYSTEM ライブラリから新規に作成した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CRTDUPOBJ OBJ(INI) FROMLIB(B733xSYS) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(syslib)  
DATA(*YES)
```

► 新規サービス・パックの JDE ログ用に新規 IFS ディレクトリを作成するには

次のコマンドを入力して、新規サービス・パックの JDE ログを格納する新規 IFS ディレクトリを作成します。

```
MD DIR (logdirectory)
```

logdirectory は、JDEB733SP など、JDE のログを格納する IFS ディレクトリの名前です。

► JDE.INI を編集するには

注:

JDE.INI へのアクセスには、A98OWMNU のオプションを使用しないでください。このオプションを使用すると、サービス・パックの.INI ではなく本稼働用の JDE.INI にアクセスする結果になります。

1. 次のコマンドを入力して、コピーした JDE.INI を編集します。

```
WRKMBRPDM FILE(syslib/INI)
```

(*syslib* は、B73SPSYS などの新規システム・ライブラリ名です。)

2. “Option 2”と入力してファイルを編集します。
3. JDE.INI ファイルの[DEBUG]および[INSTALL]セクションを探し、次の各エントリ内のパスを、それぞれ新規 IFS ディレクトリとライブラリを指すように変更します。

```
[DEBUG]
```

```
DebugFile=logdirectory/JDEDEBUG
```

```
JobFile=logdirectory/JDE.LOG
```

```
JDETSFile=logdirectory/JDETS.LOG
```

```
[INSTALL]
```

```
DefaultSystem=syslib
```

4. [JDEIPC]セクションを探し、startIPCKeyValue を変更します。この値には、他のインスタンスの IPC の範囲に含まれていない未使用の開始キーを指定する必要があります。たとえば、他のインスタンスの IPC 値が 5000 の場合は、startIPCKeyValue を“7000”に設定します。

```
[JDEIPC]
```

```
startIPCKeyValue=7000
```

5. [JDENET]セクションを探し、serviceNameList と serviceNameConnect のポート設定を探します。エントリごとに、番号に 100 を加算します。たとえば、設定がどちらも 6009 になっている場合は、6109 に変更します。

```
[JDENET]
```

```
serviceNameListen=6109
```

```
serviceNameConnect=6109
```

6. [SECURITY]セクションで、セキュリティをオフにするか、新規サービス・パックにアクセスする有効な環境を参照するように DefaultEnvironment を編集します。
7. 本稼働用環境(PRODB733、PD7334 など)のすべての参照を、新規サービス・パックにアクセスする有効な環境(CRPB733、PY7334 など)で置き換えます。

▶ 既存のサブシステムから新規サービス・パック用のサブシステム・エントリを削除するには

サービス・パックのインストールによって、既存のサブシステムに新規サービス・パック用のエントリが作成されます。新しいサービス・パックに対しては新しいサブシステムが作成されるため、このエントリは不要です。

1. エントリを削除するには、次のコマンドを入力します。

```
WRKSBSD SBSD(syslib/*ALL)
```

2. 新規の *syslib* を含むエントリの隣の[Option]に“4”と入力して、そのエントリを削除します。

▶ 新規にインストールしたサービス・パック用の新規サブシステムを作成するには

1. 次の手順で操作する前に、QSECOFR としてサインオンしていることを確認します。
2. ライブラリ・リストに ERP 9.0 SYSTEM ライブラリを追加します。

```
ADDLIBLE syslib
```

3. SP リリースに応じて次のコマンドを入力します。

SP14.3 以下の場合:

```
CALL PGM(NETSBSBLD) PARM('subsystemname' 'syslib' 'syslib' 'syslib')
```

SP15 以上の場合:

```
CHGCMD CMD(CRTOWSBS) PGM(*LIBL/CRTOWSBS)
```

```
CRTOWSBS SUBSYSTEM(subsystemname) SYSLIB(syslib)
```

subsystemname は、JDEB733SP など、新規にインストールしたサービス・パック用の新規サブシステムの名前です。

注:

CALL PGM コマンドには、4 つのパラメータが必要です。リリース B73.3 からは、最後の 3 つのパラメータで新規 SYSTEM ライブラリを指定する必要があります。

▶ **ライブラリ・リストが適切に設定されているかどうかを確認するには**

AS/400 に ONEWORLD でサインオンします。ライブラリ・リストが適切に設定されているかどうかを確認するには、新規に作成した ERP 9.0 のシステム・ライブラリ(B73SPSYS など)が含まれているかどうかを調べます。

▶ **パス・コードのビジネス関数を新規サービス・パックにリンクするには**

新規サービス・パックに関連付ける ERP 9.0 のパス・コードごとに、関連する AS/400 ライブラリにあるビジネス関数を再リンクします。指定したパス・コード用のフルパッケージごとに、次のコマンドを実行する必要があります。

1. パス・コードのフルパッケージに対して LINKBSFN を実行します。“LINKBSFN”と入力し、[F4]キーを押してシステム・プロンプトを表示します。最初のパラメータにパッケージ・ライブラリ名、2番目のパラメータにパス・コードを入力します。
2. 前の手順が正常終了するまで待ってから、次の手順に進みます。
3. この手順を、更新するパッケージとパス・コードごとに繰り返します。

PORTTEST の実行

新規サービス・パックがエンタープライズ・サーバーに正常にインストールされたことを確認するために、次の手順に従って、新規サービス・パックにアクセスするすべての環境で PORTTEST を実行します。

注:

セキュリティ・サーバーが稼働している場合は、PORTTEST を実行する前に ERP 9.0 サービスを実行する必要があります。STRNET コマンドを使用して ERP 9.0 サービスを開始してください。

▶ **PORTTEST を実行するには**

1. AS/400 に ONEWORLD でサインオンします。
2. 〈Current ERP 9.0 Versions(現行の ERP 9.0 のバージョン)〉で、新規にインストールした ERP 9.0 インスタンスを選択します。
3. 次のコマンドを入力して、ERP 9.0 のメニューにアクセスします。

ADDLIBLE JDEOW

GO JDEOW/A98OWMNU

4. 選択肢 12 を選択して PORTTEST を実行します。
5. 新規サービス・パックにアクセスする環境ごとに、PORTTEST コマンドを繰り返します。

▶ ERP 9.0 のサービスを開始するには

1. AS/400 に OneWorld でサインオンします。
2. 〈Current ERP 9.0 Versions〉で、新規にインストールした ERP 9.0 インスタンスを選択します。
3. 次のコマンドを入力します。
ADDLIBLE JDEOW

GO JDEOW/A98OWMNU
 - 選択肢 14 を選択すると、JDE サーバーが終了します。
 - 選択肢 15 を選択すると、IPC がクリアされます。
4. エンタープライズ・サーバーを起動するには、次のように選択します。
 - 選択肢 13 を選択すると、JDE サーバーが起動されます。
 - 選択肢 17 を選択すると、活動中のジョブが表示されます。
5. NETWORK 項目が実行中であり、PGM-MONITOR が SELW 状況になっているかどうかを確認します。
6. SENTINEL 項目が実行中であり、PGM-MONITOR が SIGW 状況になっているかどうかを確認します。

ネットワーク要求を実行するまで、CPU は 0(ゼロ)になっています。

クライアントの JDE.INI ファイルの編集

ERP 9.0 クライアントから新規サービス・パックにアクセスするには、各クライアント上の jde.ini ファイルを、新規ディレクトリを指すように編集する必要があります。

新規サービス・パックにアクセスするパス・コードを含むすべての ERP 9.0 クライアント上で、次の手順で操作します。

注:

単一のクライアントで複数のサービス・パックにアクセスすることはできません。複数のサービス・パックにアクセスするには、サービス・パックごとに異なるクライアントをインストールする必要があります。そのためには、クライアントをインストールするたびに、スナップショット・アプリケーションを使用して各クライアントを保存する必要があります。

▶ クライアントの jde.ini ファイルを編集するには

1. ERP 9.0 ワークステーション上で Windows Explorer を開き、c:\WINNT ディレクトリに移動します。
2. jde.ini ファイルを開きます。
3. ファイルの[JDENET]セクションを探し、serviceNameListen と serviceNameConnect のポート設定を編集します。次のエントリを、新規サービス・パック用のサーバー側 jde.ini ファイルのエントリと一致するように変更します。

[JDENET]

serviceNameList=*portNumber*

serviceNameConnect=*portNumber*

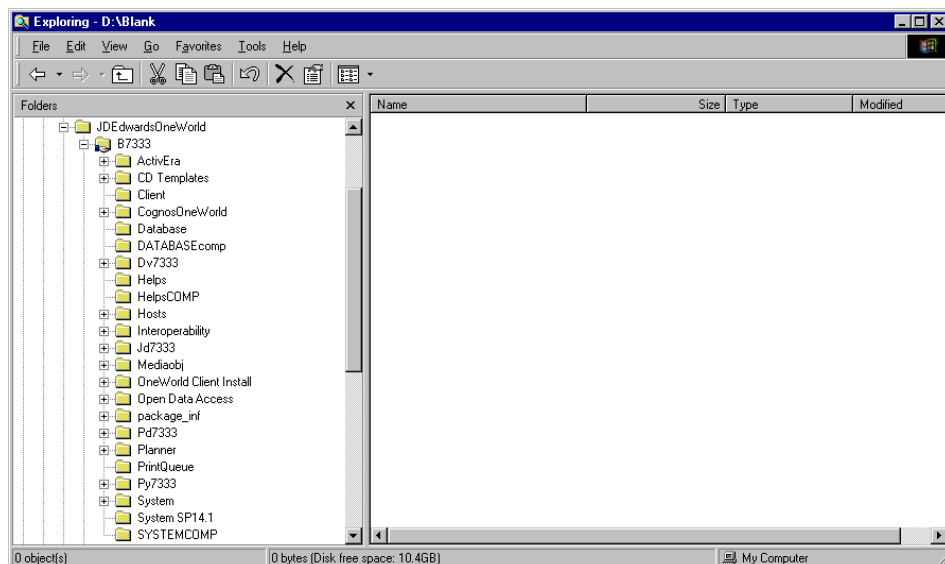
portNumber は、エンタープライズ・サーバー上で jde.ini ファイルに入力したのと同じポート番号です。

デプロイメント・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール

次の手順に従って、デプロイメント・サーバーに複数のサービス・パックをインストールします。

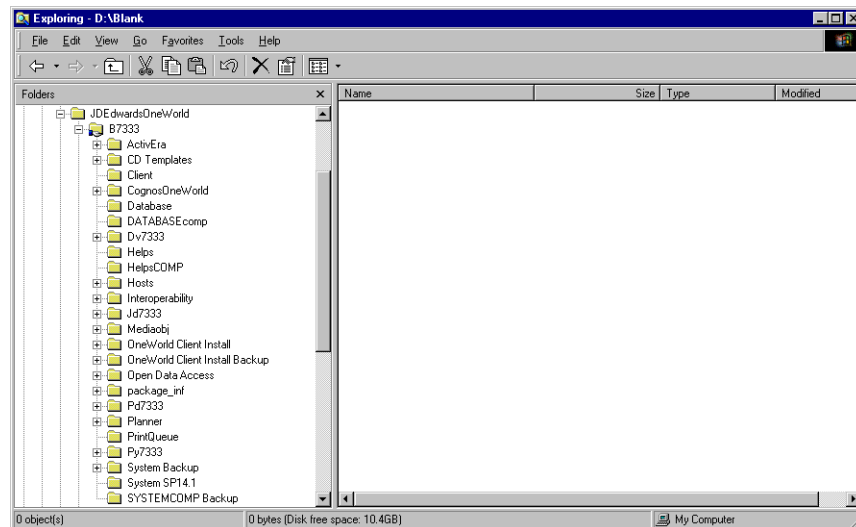
▶ デプロイメント・サーバーに複数のサービス・パックをインストールするには

1. デプロイメント・サーバー上で、z:\JDEdwardsOneWorld\B733x ディレクトリに移動します。
(zは ERP 9.0 がインストールされているドライブ、x は現行リリースの PTF/Cum 番号です。)
2. B733x ディレクトリに、System SPy ディレクトリを作成します。y は、インストールするサービス・パックのリリース番号です(たとえば、“System SP14.1”と入力します)。



3. \JDEdwardsOneWorld\B733x ディレクトリで、System および SYSTEMCOMP ディレクトリの名前を、それぞれ System.Backup および SYSTEMCOMP.Backup に変更します。警告メッセージが表示される場合は、[OK]をクリックします。

4. ¥PeopleSoft¥B733x ディレクトリで、サブディレクトリ Client Install Backup を作成し、このバックアップ・ディレクトリに Client Install ディレクトリをコピーします。

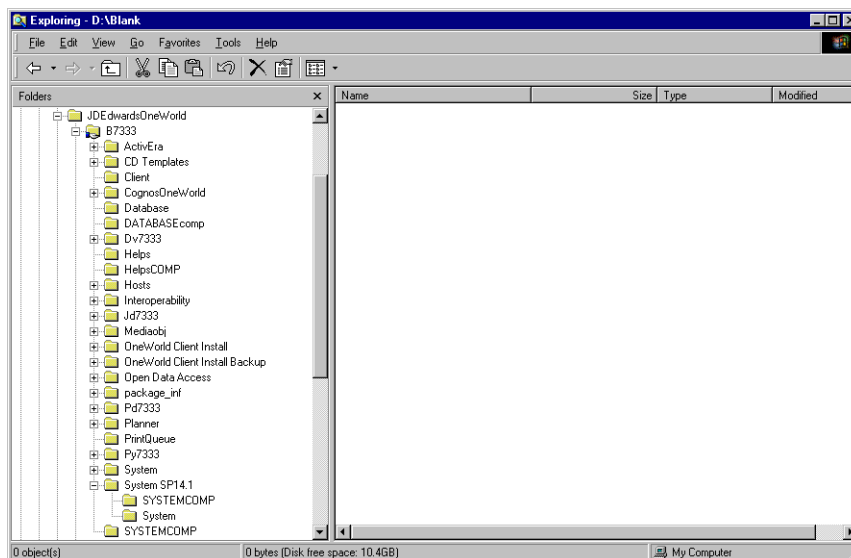


5. **CD からインストールする場合:** デプロイメント・サーバーの CD ドライブにサービス・パック CD を挿入し、インストール・プログラムを実行します。このプログラムによって、新規の System、SYSTEMCOMP、および Client Install ディレクトリがデプロイメント・サーバーにコピーされます。

ダウンロードした実行可能ファイルからインストールする場合: デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location (このプログラムを上記の場所から実行する)] を選択できます。それ以外の場合は、[Save this program to disk (このプログラムをディスクに保存する)] を選択する必要があります。実行可能ファイル.exe (複数の場合あり) をデプロイメント・サーバーに転送し、そこで実行します (ダウンロードした複数のクライアントをインストールする場合は、最初に CL download.exe を実行してから、他の.exe を実行します)。実行可能ファイルは、一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。

- ファイルを抽出中であることを示すボックスが表示されます。
 - JDE インストール・プログラムが自動的に起動します。〈JDE Installation Setup (JDE インストールのセットアップ)〉画面が表示されます。[Next] をクリックします。
 - 〈JDE Setup Type (JDE セットアップの種類)〉画面が表示されます。[Finish (完了)] をクリックします。これによって、新規の System、SYSTEMCOMP、および ERP 9.0 Client Install ファイル/ディレクトリがデプロイメント・サーバーにインストールされます。
 - 完了すると、「J.D. Edwards Installation Complete (J.D. Edwards のインストール完了)」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
 - 手順 a～d を、ダウンロードしたクライアントごとに繰り返します。
6. 新規にインストールした System および SYSTEMCOMP ディレクトリを、¥JDEdwardsOneWorld¥B733x¥System SPy ディレクトリに移動します。

7. System.backup および SYSTEMCOMP.backup ディレクトリの名前を、それぞれ System および SYSTEMCOMP に変更して、オリジナルのディレクトリを復元します。



▶ 新規サービス・パック用の新規マシン・レコードを追加するには

1. デプロイメント・サーバー上で、ERP のデプロイメント環境にログインします。
2. [略式コマンド]メニューから、P9654A アプリケーションを実行します。
3. 〈ロケーション/マシンの処理〉フォームで、[検索]をクリックしてロケーション・ツリーを展開します。
4. [エンタープライズ・サーバー]をクリックし、[追加]をクリックします。
5. 〈エンタープライズ・サーバーの改訂〉フォームで、次のフィールドに情報を入力します。
 - [マシン名] — 既存の基本エンタープライズ・サーバーの名前を入力する必要があります。
 - [記述] — マシンの記述を入力します。
 - [リリース] — “B733x”と入力します(x はリリースの PTF/Cum 番号)。
 - [ホスト・タイプ] — ビジュアル・アシスト・ボタンをクリックし、エンタープライズ・サーバーのタイプを選択します。
 - [ポート番号] — 新規サービス・パックの JDE.INI で以前に設定したのと同じポート番号を入力する必要があります。

- [データベース・タイプ] – エンタープライズ・サーバー上で使用するデータベースのタイプ。
- [インストール・パス] – エンタープライズ・サーバー上で新規サービス・パックをインストールするライブラリ(*syslib* など)。

6. [OK]をクリックします。

注:

Oracle データベースの場合は、接続文字列の入力を求めるプロンプトが表示されます。接続文字列を入力または確認して[OK]をクリックします。

7. 〈ロケーション/マシンの処理〉フォームで、[検索]をクリックしてツリーを展開します。
8. [エンタープライズ・サーバー]を展開し、新規に作成したマシンをクリックし、[選択]をクリックします。
9. 〈エンタープライズ・サーバーの改訂〉で、フォームまたはロー・メニューから[環境]をクリックします。
10. 〈マシン環境の改訂〉フォームで、新規サービス・パックにアクセス可能にする環境を追加します。この場合、(a) グリッドに入力する方法と、(b) ビジュアル・アシストを使用して選択する方法があります。
11. [OK]を 2 回クリックします。この操作によって〈ロケーション/マシンの処理〉に戻ります。

► **環境を削除するために既存のマシン・レコードを修正するには**

1. デプロイメント・サーバー上で、ERP のデプロイメント環境にログインします。
2. [略式コマンド]メニューから、P9654A アプリケーションを実行します。
3. 〈ロケーション/マシンの処理〉フォームで、[検索]をクリックしてロケーション・ツリーを展開します。
4. [エンタープライズ・サーバー]を展開し、初期のエンタープライズ・サーバー・マシン・レコードをクリックし、[選択]をクリックします。
5. 〈エンタープライズ・サーバーの改訂〉フォームで、フォームまたはロー・メニューから[環境]をクリックします。
6. 前項で追加した環境をすべて削除します。そして、本稼働用サービス・パック(PD7334 など)にアクセスする環境のみを残します。
7. [OK]を 2 回クリックします。

デフォルト以外のファンデーションを使用したパッケージの作成

デプロイメント・サーバーに新規ファンデーションをインストールし、そこにアクセスするように ERP 9.0 クライアントを構成した後、次の手順に従ってクライアント・パッケージとサーバー・パッケージを作成できます。

- デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成
- デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成

注:

単一のクライアントで複数のサービス・パックにアクセスすることはできません。複数のサービス・パックにアクセスするには、サービス・パックごとに異なるクライアントをインストールする必要があります。そのためには、クライアントをインストールするたびに、スナップショット・アプリケーションを使用して各クライアントを保存する必要があります。

デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成

最も一般的なパッケージ作成方法は、ファンデーションのデフォルトを受け入れることです。デフォルトのファンデーションの位置は、パッケージのパス・コードに関連付けられているリリースによって決定されます。通常、この位置は、パス・コードと同じディレクトリ・レベルにあるシステム・ディレクトリです。次の手順では、〈ファンデーション・コンポーネント〉フォームに表示されるデフォルトのファンデーションを、指定したファンデーションに変更する方法について説明します。

▶ 特定のサービス・パックを使用してクライアント・パッケージを作成するには

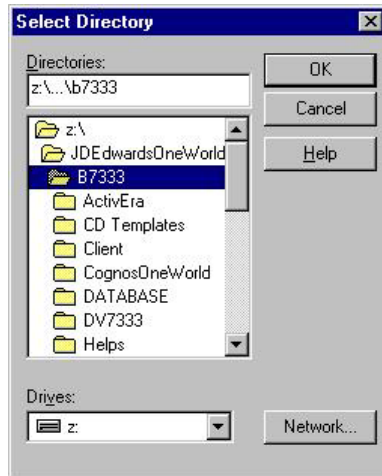
1. デプロイメント・サーバー上で、ERP のデプロイメント環境にログインします。
2. [略式コマンド]から GH9083 メニューにアクセスします。
3. 〈パッケージ・アセンブリ〉アプリケーションを実行します。
4. 〈パッケージの処理〉フォームで、[追加]をクリックします。
5. 〈ファンデーション・コンポーネント〉フォームが表示されるまで、各フォームにパッケージ情報を入力します。
6. 〈ファンデーション・コンポーネント〉フォームで、最下部にある[表示]ボタンをクリックします。

7. 〈ファンデーション・コンポーネントの選択〉フォームで、[追加]をクリックします。

8. 〈ファンデーション項目の改訂〉フォームで、次のフィールドに値を入力します。

- [基盤名] — システム名を入力します。たとえば、“SystemSP14.1”と入力します。
- [記述] — ファンデーションの詳細記述を入力します。
- [サービス・パック番号] — ファンデーションのサービス・パック番号を入力します。たとえば、“14.1”と入力します。
- [リリース] — 基本リリースを入力します。たとえば、“B733”と入力します。
- [プラットフォーム・タイプ] — クライアントの場合は、“50”または“80”と入力します。どちらも機能します。
- [ビルド・タイプ] — 最適化を表す“20”を入力します。
- [ファンデーション・ビルド状況] — ファンデーション使用可能を表す“30”を入力します。
- ビルド日付 — サービス・パック CD に記載されている日付、または Knowledge Garden® からファイルをダウンロードした日付を入力します。
- [ビルド時刻] — このフィールドは 00:00:00 のままにします。
- [基盤マシン・キー] — ブランクのままにします。(次のステップを完了すると、このフィールドに自動的に値が設定されます。)
- [基盤パス] — パスは手動で入力しないでください。次の手順に従って、使用するシステム・ディレクトリを選択します。

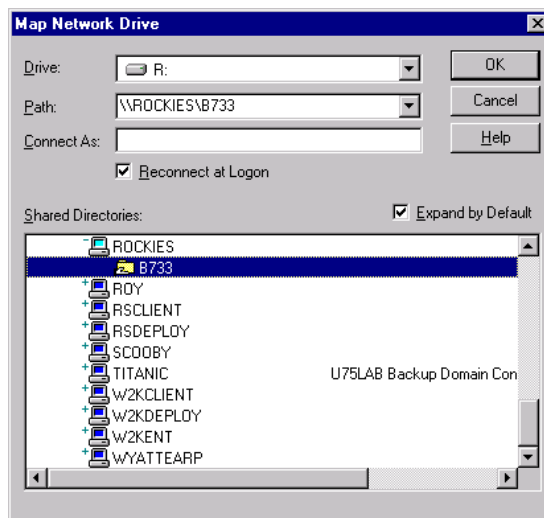
9. 〈ファンデーション項目の改訂〉フォームの最下部で、[表示]ボタンをクリックします。



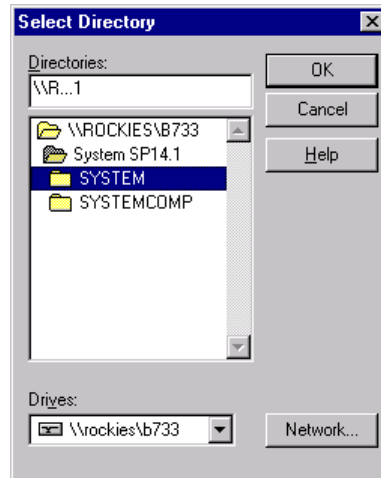
10. 〈Select Directory〉フォームで、[Network(ネットワーク)]ボタンをクリックし、使用するシステム・ディレクトリに移動します。

警告:

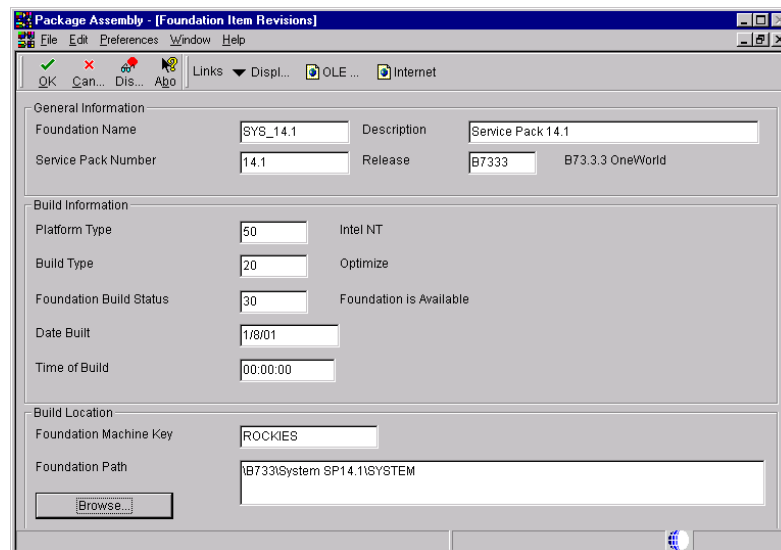
〈Select Directory〉ウィンドウに表示されるツリーからは、システム・ディレクトリを直接選択しないでください。



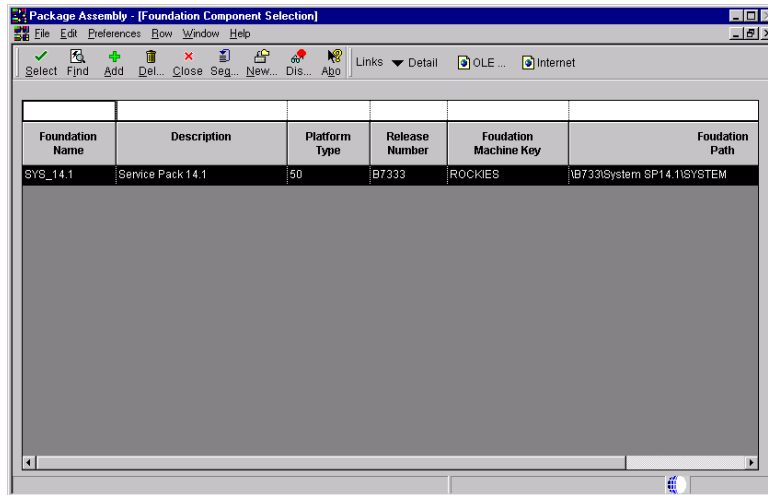
11. 〈Map Network Drive(ネットワーク・ドライブのマップ)〉の〈Shared Directories(共有ディレクトリ)〉ウィンドウで、ディレクトリをデプロイメント・サーバーのマシン名まで展開し、B733x 共有ディレクトリを選択します。
12. [OK]をクリックします。



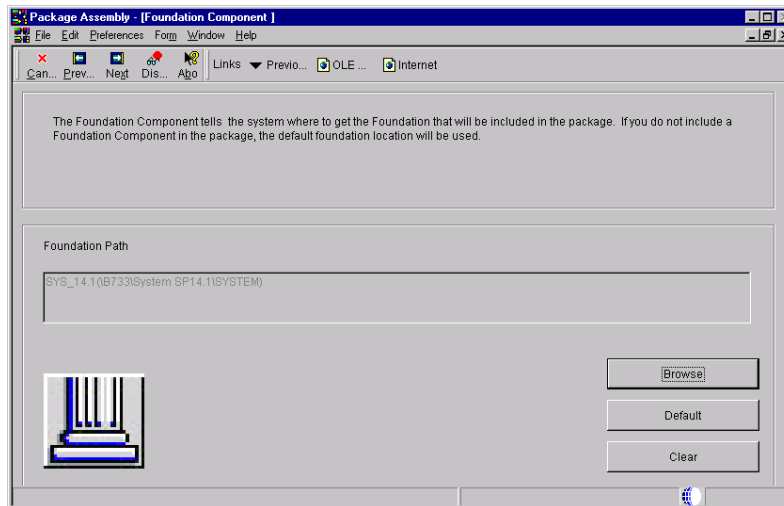
13. 〈Select Directory〉ウィンドウで、¥System SPx¥System ディレクトリに移動して[OK]をクリックします。
14. 〈ファンデーション項目の改訂〉フォームが表示され、選択したシステム・ディレクトリが[基盤パス]フィールドに入力されます。



15. [OK]をクリックします。
16. 〈ファンデーション要素の選択〉フォームで、[検索]をクリックします。入力したファンデーションがグリッドに表示されます。



17. 入力したファンデーションを選んで[選択]をクリックします。



18. <基盤要素>フォームで、<基盤パス>ウィンドウにファンデーションへの適切なパスが表示されることを確認します。パッケージのビルドを続けます。

注:

インストールしたすべてのクライアント・パッケージで、同じ JDE.INI が使用されます。従って、[JDENET]セクションのポート番号を、クライアントからアクセスするエンタープライズ・サーバー上のサービス・パックと一致するように編集する必要があります。この手順は、パッケージ・ビルド処理に用意されている「フィーチャー」機能を使用すると自動化できます。この機能の設定方法については、『パッケージ管理』ガイドを参照してください。

デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成

次の手順に従って、デフォルト以外のファンデーションを使用してサーバー・パッケージを作成します。

- デプロイメント・サーバーを使用したサーバー・パッケージの作成
- クライアントを使用したサーバー・パッケージの作成

▶ デプロイメント・サーバーからサーバー・パッケージを作成するには

1. デプロイメント・サーバー上で、ERP からログオフします。
2. Windows Explorer で、c:\¥WINNT ディレクトリに移動して jde.ini ファイルを開きます。
3. [JDENET]セクションを探し、serviceNameList と serviceNameConnect のポート設定を、使用する新規サービス・パック用のサーバー側 jde.ini に入力した設定と一致するように変更します。

[JDENET]

serviceNameList=*portNumber*

serviceNameConnect=*portNumber*

(*portNumber* は、jde.ini ファイルに入力したのと同じポート番号です。)

4. ERP を開き、デプロイメント環境にログインします。
5. 必要なパラメータを使用してサーバー・パッケージを作成します。

▶ クライアントからサーバー・パッケージを作成するには

1. サーバー・パッケージをビルドする新規ファンデーションを含む ERP 9.0 クライアントを選択し、ERP にログインします。
2. 通常の方法でサーバー・パッケージを作成します。

注:

デフォルト以外のファンデーションを使用して、クライアント・パッケージとサーバー・パッケージを同時にビルドする場合は、クライアント・パッケージの作成時に〈Foundation Component〉フォームに入力したのと同じファンデーションを選択してください。

本稼働用環境への新規ファンデーション・コードのプロモート

新規サービス・パックのテストと承認が完了した後、新規ファンデーションを本稼働用環境にプロモートできます。

▶ 新規ファンデーション・コードを本稼働用環境にプロモートするには

1. AS/400 に ONEWORLD でサインオンします。
2. 現行の本稼働用リリースを選択します。
3. 次のコマンドを入力して、AS/400 上で ERP 9.0 を終了します。
ENDNET

CLRIPC
4. AS/400 に QSECOFR でサインオンします。
5. 次のコマンドを入力してジャーナリングを終了します。
ENDJRNPFC FILE(*ALL) JRN(OWJRNL/OW_JRNL)
6. 次のコマンドを入力して、B733xSYS 内のロックを解除します。
WRKOBJLCK OBJ(QSYS/B733xSYS) OBJTYPE(*LIB)
7. B733xSYS 内の*SQLPKG ファイルをすべて削除します。
8. 次のコマンドを入力して、ERP 9.0 の SYSTEM ライブラリ名と IFS ディレクトリ名を変更します。
RNM OBJ(QSYS/B733xSYS) OBJTYPE(*LIB) NEWOBJ(B733xSYSBK)

RNM OBJ(B733xSYS) NEWOBJ(B733xSYSBK)

x は、現行リリースの PTF/Cum 番号です。

注:

インストール環境に固有のオブジェクトが一部含まれているので、これらのライブラリは削除しないでください。

9. 次のコマンドを入力して、プロファイルの権限を変更します。
GRTOBJAUT OBJ(ONEWORLD) OBJTYPE(*USRPRF) USER(*PUBLIC) AUT(*USE)

10. 次のコマンドを入力して、*syslib* 内のロックを解除します。

```
WRKOBJLCK OBJ(QSYS/syslib) OBJTYPE(*LIB)
```

11. *syslib* 内の*SQLPKG ファイルをすべて削除します。

12. AS/400 上で、次のコマンドを入力して、本稼働用にプロモートするシステム・ライブラリと IFS ディレクトリの名前を変更します。

```
RNM OBJ(syslib) OBJTYPE(*LIB) NEWOBJ(B733xSYS)
```

```
RNM OBJ(syslib) NEWOBJ(B733xSYS)
```

syslib は本稼働用にプロモートするシステム・ライブラリの名前、*x* は現行リリースの PTF/Cum 番号です。

13. 次のコマンドを入力して、PRINTQUEUE ファイルを SYSTEM ライブラリのバックアップから新規に復元した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CPYF FROMFILE(B733xSYSBK/PRINTQUEUE) TOFILE(B733xSYS/PRINTQUEUE)  
FROMMBR(*ALL) TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE) CRTFILE(*YES)
```

14. 次のコマンドを入力して、JDE.INI の名前を変更します。

```
RNM OBJ(B733XSYS/INI) OBJTYPE(*FILE) NEWOBJ(OLD_INI)
```

15. 次のコマンドを入力して、JDE.INI ファイルを SYSTEM ライブラリのバックアップから新規に復元した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CRTDUPOBJ OBJ(INI) FROMLIB(B733xSYSBK) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(B733xSYS)  
DATA(*YES)
```

▶ プロモートするサービス・パック用のサブシステム・エントリを削除するには

1. エントリを削除するには、次のコマンドを入力します。

```
WRKSBSD SBSD(syslib/*ALL)
```

2. プロモートするサービス・パック用のサブシステムを含むエントリの隣の[Option]に“4”と入力します。

3. エントリを削除します。

▶ プロモートする新規サービス・パック用の新規サブシステムを作成するには

1. 次の手順で操作する前に、QSECOFR としてサインオンしていることを確認します。
2. ライブラリ・リストに ERP 9.0 SYSTEM ライブラリを追加します。

ADDLIB B733xSYS

3. SP リリースに応じて次のコマンドを入力します。

SP14 以下の場合:

```
CALL PGM(NETSBSBLD) PARM('subsystemname' 'B733xSYS' 'B733xSYS'  
                           'B733xSYS')
```

SP15 以上の場合:

```
CHGCMD CMD(CRTOWSBS) PGM(*LIBL/CRTOWSBS)
```

```
CRTOWSBS SUBSYSTEM(subsystemname) SYSLIB(B733xSYS)
```

subsystemname は、JDEB733x など、新規にインストールしたサービス・パック用の新規サブシステムの名前です。

注:

CALL PGM コマンドには、4 つのパラメータが必要です。リリース B73.3 からは、最後の 3 つのパラメータで新規 SYSTEM ライブラリを指定する必要があります。

▶ ライブラリ・リストが適切に設定されているかどうかを確認するには

AS/400 に ONEWORLD でサインオンします。ライブラリ・リストが適切に設定されているかどうかを確認するには、新規に作成した ERP 9.0 のシステム・ライブラリ(B733xSYS など)が含まれているかどうかを調べます。

▶ パス・コードのビジネス関数を新規サービス・パックにリンクするには

本稼働用サービス・パックに関連付ける ERP 9.0 のパス・コードごとに、関連する AS/400 ライブラリにあるビジネス関数を再リンクします。指定したパス・コード用のフルパッケージごとに、次のコマンドを実行する必要があります。

1. パス・コードのフルパッケージに対して LINKBSFN を実行します。“LINKBSFN”と入力し、[F4]キーを押してシステム・プロンプトを表示します。最初のパラメータに**パッケージ・ライブラリ名**、2 番目のパラメータに**パス・コード**を入力します。

2. 前の手順が正常終了するまで待ってから、次の手順に進みます。
この手順を、更新するパッケージとパス・コードごとに繰り返します。

▶ **新規にプロモートしたサービス・パックが正常に動作するかどうかを確認するには**

1. サインオフし、ユーザーOneWorld でサインオンします。
2. ERP 9.0 が正常に動作しているかどうかを調べて、ライブラリ・リストが適切に設定されていることを確認します。たとえば、PORTTEST と STRNET を実行します。

▶ **デプロイメント環境のファンデーションを本稼働用環境にプロモートするには**

1. デプロイメント・サーバー上で、z:¥JDEdwardsOneWorld¥B733x ディレクトリに移動し、ディレクトリ¥System Backup を作成します。
2. System および SYSTEMCOMP ディレクトリを、System Backup ディレクトリにコピーします。
3. z:¥JDEdwardsOneWorld¥System SPy ディレクトリ(y はプロモートするサービス・パックのリリース番号)に移動し、system および SYSTEMCOMP ディレクトリを z:¥JDEdwardsOneWorld¥B733x ディレクトリに移動します。
4. P9654A アプリケーションを使用して、プロモートしたサービス・パックにアクセスする環境を組み込むために各マシン・レコードを編集します。

